



真の安全確立に向けて 議論を創り出そう！

本部申8号・新幹線ドア不良のまま営業運転を継続したことに関する申し入れ

中央本部は10月9日、申8号として「新幹線ドア不良のまま営業運転を継続したことに関する申し入れ」を提出しました。

上越新幹線において発生した乗降ドア不具合に対する会社側の姿勢に対して、安全を第一とした対応をとるよう求めたものです。

自然閉扉を繰り返す編成をそのまま営業列車として運転継続

- ◎ 2018年7月13日、「MAXとき320号」(16両編成)が大宮駅で乗降扱い中に、9号車から16号車まで8両分のドアが、スイッチ類を扱っていないにも関わらず閉扉する異常が3度発生
- ◎ 2018年7月30日、「MAXとき324号」(8両編成)が新潟駅で乗降扱い中に、全車両の左右両側(新幹線ホーム側と、在来線乗り換えホーム側)全てのドアが、スイッチ類を扱っていないにも関わらず閉扉する異常が2度発生
- ◎ どちらも事象発生後、原因が特定されないまま営業列車として終着の東京駅まで運行された

職場からは「安全軽視だ」「運行優先では？」の声

ドアに関わる事象はお客さまの傷害事故に直結することから、車掌は細心の注意を払いながらドア扱いを行っています。

安全が確認できないまま運行が継続されたことから職場の社員、組合員からは「なぜお客さまを乗せたまま運転を継続したのか」「不安を抱えたまま乗務はしたくない」「会社は運行優先体質なのではないか」など、疑問の声があげられています。



現場社員からの声を基に本部申し入れを提出！真の安全の確立を！

お客さまがドアに挟まれて傷害事故につながる恐れがあった重大事象であるとの認識のもと、新潟地本は当該職場・分会の組合員を中心に、問題点の把握と議論を進めてきました。

本部申8号 申し入れ項目

車両故障の発生時においては、お客さまに傷害事故を与える要素が排除されない限りは、その当該車両を営業列車として運行する判断を行わないこと。

鉄道運行を最前線で担う指令員、車掌、運転士が不安を抱いたまま業務に従事しなければならない企業体質であれば、JR東日本が掲げる「安全の追求」を大きく揺るがすこととなります。

この間の議論をもとに中央本部は、申8号として申し入れを行いました。真の安全確立に向けて、職場から議論を創り出しましょう！